

2024年3月期 第1四半期決算に関する主なご質問

- Q: 欧州の建築用ガラス事業における販売数量は前年と比較しどう変化したか？第2四半期以降、売上構成の改善による収益の改善は期待できるか？
- A: 当第1四半期における販売数量は、前年度第3四半期・第4四半期と同程度でした。今後も欧州での景気減速による需要減は続くとみられ、当面の間販売数量は同水準で推移すると想定しています。欧州では環境への影響軽減の観点から、複層ガラスなどの比較的利益率の高い製品による改築需要が底堅く、売上構成の改善は十分期待できます。
- Q: 自動車用ガラス事業は価格交渉の効果もあり改善しているが、第2四半期以降も価格を維持できれば通期で同水準の利益確保ができるか？
- A: 燃料価格は低下してきていますが原材料価格や運送費、人件費を含めたその他コストが上昇しており、これらを吸収する販売価格改善交渉を継続して実施する必要があります。自動車用ガラス事業におけるさらなる業績改善はこれらの進捗次第です。
- Q: 太陽電池パネル用ガラスについて、マレーシアでの2024年3月期第3四半期生産開始に向けて設備新設が進捗中とのことだが、収益への寄与はいつからか？
- A: 本年の第3四半期稼働開始を予定していますが、一定の立ち上げ時期を見て収益への寄与は第4四半期頃からとなる見込みです。
- Q: 太陽電池パネル用ガラスについて、主要な顧客が米州において更なる生産能力増強を掲げているが、どのような対応を検討しているか？
- A: 既存窯の転換や窯の新設を含め、投資効果が大きくなるようあらゆる選択肢を検討しています。
- Q: 今回上期業績予想を50億円上方修正し190億円としているものの、第1四半期の営業利益が146億円であることを勘案すると第2四半期の営業利益は保守的に見える。また下期予想についても前回予想を据え置いているが、これらの背景は？
- A: 欧米を中心に全地域において事業環境が不透明と見ているためです。高機能ガラス事業もIT市場の減速影響を受ける見込みです。
- Q: 業績が改善傾向にありフリー・キャッシュ・フローも創出されてきているが、キャッシュの使い道について具体的な検討はしているか？
- A: 現時点で今年度における具体的な案はございませんが、キャッシュの使い道は当社の状況を注視しつつ複合的に考え各ステークホルダーのバランスをとりながら検討していきます。